

『休んでいたから強い成田が帰ってきた』 と思つていただけるようにしたい

国内女子プロゴルフツアー優勝通算13回を誇る成田美寿々プロは、現在は無期限休養中ながら、「もう1回、でつかい花火をあげて見せる!」と宣言。第一線への復活を目指しています。その成田プロとカーコンのオープンコンペ「愛車人カップ」を主催するほどゴルフ好きの林成治社長の対談は、いよいよ佳境に。どんなお話を飛び出したのでしょうか。



カーコンビニ俱楽部 代表取締役社長
林 成治 Seiji Hayashi

林..私は、ゴルフの時はいつもサングラスをしてプレーしていますが、サングラスをするシヨットが上手く打てなくなるゴルファーもいますよね。

成田..います、います。プロでも苦手な選手もありますからね。そんな方は、打つ時にサングラスを外して、待っている時や移動の時にかければいいんです。なるべく紫外線から目を守ることが長時間プレーする上で大事だと思います。

林..私は、ゴルフの時はいつもお笑いを見ていましたからね。だから、ついつい人からウケるような面白いことを言いたくなつてしまふんです(笑)

成田..今の若い選手は、真面目で優等生的なコメントが多いですからね。

成田..ですね(笑)。私はけつこうビッグマウスと言われていて、「有言実行」が一番格好いいと思ってる。基本的には「優勝を目指して頑張ります」なのですが、私は、「ここ的位置なら、やっぱり優勝を目指さないと面白くないですよね」みたいなことを、敢えて言うようしているんです。まあ、メディアの捉え方によつては、ビッグマウスと言われてしまつてもしょうがない。でも、「そんな

ことを言う選手がいてもいいじゃない」と思つてるので、ジャンジャン言つてます(笑)

たつた一人の私が大企業との一騎打ちで勝てば最高に痛快で面白い



林..ビッグマウスと言われる選手は今はなかなかいないですかね。希少価値がある(笑)。実は、私も成田プロと同じように、ピンチになつたときに力を発揮するタイプなんです。例えば、20数年前、カーコンを買収した時に、最終的に個人の私と大企業の伊藤忠商事との一騎打ちになりました。私がたつた一人で、弁護士などをズラリと揃えた大企業の伊藤忠と戦つて

勝てば、最高に痛快で面白いだろくなつて、心の中で密かに思つたものです。

成田..えっ!? そんなことがあつたんですね。

林..私の場合は、失うものが何もない捨て身で戦う状況をつくることが、ピンチをチャンスに変える起爆剤になりました。でも、なかなか一筋縄ではいきません。伊藤忠を追い落とし、第一優先権を取つてから、もう一度大ピンチに見舞われました。

詰められた時に、「あつ、そういえば、あの人が昔あんなことを言つてくれたな」と、ふと思つた。慌てて駆け込むと、

林..成田プロもサングラスをしてプレーをする派ですね。

成田..目から入る紫外線が目をかなり疲れさせて、それがプレーにも影響しますからね。だからサングラスにはこだわりがあります。最初は、サングラスのメーカーと契約していた関係で着けていたのですが、今やもう手放せません。

林..私のサングラスは偏光レンズだからかもしれません、グ

リーンの傾斜がよく分かるんです。

成田..偏光レンズは光を調整して反射を抑えてくれるので、芝の状態が細かく見えますからね。

林..なるほど、裸眼でプレーしているゴルファーは、ハンデを背負つてプレーをしているようなものなんですね。ところで、成田プロは飛距離もすごいです。

林..ツアー優勝13回のうち逆転優勝が9回もあって、ピンチをチャンスに変えるコツを伺つたときに、「ピンチを楽しむことだけ」と仰いました。成田プロはコメントも的確で、トーケンの才能もすごいと思いました。

成田..意外にキャッチャーなことが言えるでしょ(笑)。昔からお笑いが大好きで、15年ほど前のオードリーさんとかノンスタイルさんの世代の漫才ブームの時にめっちゃハマつて、一日中

成田..うん、上の中といつたところですかね。今は飛ばすプロも増えましたから。データの分析が明確になつてきて、こうやって打つば飛ぶというのがみんな分かり始めてきたんです。男子プロのようにブーンという飛ばし方じやなくて、ドバーンみたいな感じで。



プロゴルファー
成田美寿々 Misuzu Narita

1992年生まれ、千葉県出身。プロテスト合格前の2012年にツアー初優勝。以後もコンスタントに勝ち続け、ツアー優勝通算13勝を達成。そのうち9勝が逆転優勝で、「逆転の美寿々」とも呼ばれている。現在は無期限休養中ながらジュニアゴルファー応援プロジェクトなどで活躍中。YouTubeでも「成田美寿々芝組ゴルフch」を配信して注目を浴びている。

林..ビッグマウスと言われる選手は今はなかなかいないですかね。希少価値がある(笑)。実は、私も成田プロと同じように、ピンチになつたときに力を発揮するタイプなんです。例えば、20数年前、カーコンを買収した時に、最終的に個人の私と大企業の伊藤忠商事との一騎打ちになりました。私がたつた一人で、弁護士などをズラリと揃えた大企業の伊藤忠と戦つて

勝てば、最高に痛快で面白いだろくなつて、心の中で密かに思つたものです。

成田..えっ!? そんなことがあつたんですね。

林..私の場合は、失うものが何もない捨て身で戦う状況をつくることが、ピンチをチャンスに変える起爆剤になりました。でも、なかなか一筋縄ではいきません。伊藤忠を追い落とし、第一優先権を取つてから、もう一度大ピンチに見舞われました。

詰められた時に、「あつ、そういえば、あの人が昔あんなことを言つてくれたな」と、ふと思つた。慌てて駆け込むと、

成田..はい。ありがとうございます。